

提出日： 2025 年 6 月 24 日

研究促進期間制度 研究実績報告書

所属学部・研究科	身分	氏名
経済学部	准教授	鳥居 鈺太郎

研究期間	以下1～4より、取得した研究機関を選択し、該当番号を右欄にご記入ください。	
	1. 2024年4月 1日 ～ 2025年3月31日	1
	2. 2024年9月 1日 ～ 2025年8月31日	
	3. 2024年4月 1日 ～ 2024年9月20日	
	4. 2024年9月21日 ～ 2025年3月31日	
活動報告	研究期間中に実施した研究活動を具体的にご記入ください。 海外活動補助費を受給した方は、海外活動の内容が分かるようにご記入ください。	
	短期記憶をヒントにした機械学習の利活用をテーマに、コーパス作成のための自然言語データ生成、ならびに隣接情報を用いたマッチングネットワークモデルの構築を行った。前者については目標とするデータ量をほぼ達成し、自然言語を時間コーディングモデルに適用するテスト作業が行える環境を整えることができた。後者については、より具体的な展開事例としてソフトウェア開発におけるオフショアジョブマッチングのモデルを提案することができた。そしてこれらモデルの有用性を確認するために必要な地域を厳選し、海外調査(アフリカ・南米)を実施した。	
得られた研究成果について	上記の研究活動の結果、得られた研究成果についてご記入ください。	
	2024 年度以前から継続している時間コーディングモデルの研究に加え、その応用課題としてオフショアジョブマッチングモデルを構築した。成果の一部は国際会議(ICCE2025, フィリピン, 2024 年 11 月)にて発表し、本モデルが持つ機能やシステムの有効性について、海外 IT セクターの研究者や事業家に理解されることが分かった。海外調査出張では、本研究の基礎技術となる AI やブロックチェーンに関する研究・教育機関、現地に展開する NGO にて提案モデルの展開可能性について調査を行った。その結果、有用性や地域によるソフトウェア開発の指向性等が明らかとなり、モデルの改良に役立つこととなった。以上の成果をふまえ、システム化に向けた次の Phase へ進める確証を得ることができた。	
今後の計画について	得られた成果を踏まえ、今後どのように研究を発展させる計画か、ご記入ください。	
	提案モデルについて、その全体像は大規模となるため、まずプロトタイプ形式でデータベースを中核としたシステム構築作業を行う計画である。オフショアジョブマッチングの対象地としては、本研究制度で実施した海外調査を参考に 2～3 カ国を想定している。それらの国々では、プロトタイプによるシステムを用いた提案ならびに理解を得る Phase 1, 実際のオフショア開発を想定した実験として仮想マッチングを行う Phase 2, そして具体的なジョブマッチングを自然言語(コーパスデータ)と連動して行う Phase 3, の順に展開する予定である。これら実証実験については、グローバル IT セクターでの取り組みを学部教育で生かすと同時に、内外の研究機関においてその成果を発表する予定である。	